

# DAS KAPITAL

## 第87回「資本論を読む会」の案内

☆次回は-5月29日(金曜日)

午後6時30分からZoomで開催

第14章「流通期間」(討論)と第15章「回転期間が資本前貸の大きさに及ぼす影響」(第1節と第2節)[岩波文庫(四)p379~p407]をやります。



AIの K.Marx君

今年の連休は如何お過ごしでしたか?

さて第86回「資本論を読む会」は4月27日に開催しましたが、今回も参加者は10名で、第13章「生産期間」のレポートと討論をやりました。第14章は「読み合わせ」だけやって、討論は次回に回しました。この辺りは前回の「労働期間」と次回の「流通期間」の3セットでの概念整理です。例のG-W-G'みたいな議論で難渋したのとは違って、大変分かりやすい表現にはなっていますね。

出だしは「労働期間はつねに生産期間である。すなわち、資本が生産部面に拘束されている期間である。」逆に「資本が生産過程にある全ての期間が、必ず労働期間であるとは限らない」(p351)と始まります。ん!?…と思いますが、労働が中断される場合として、「搾られた葡萄液の…発酵過程」や「製陶業における、生産物の乾燥過程」のように、自然的条

件で労働が中断される例が出てくるので、ナンダ…(分かる話だ)と続けられます。こういう生産期間と労働期間との違いや中断の具体例が紹介されます。

今回のレポートはKusiちゃんでしたが、特筆すべきことは、このレポートの要点をAIに書かせてきたことですね。AIさん初登場でした。彼によると「第13章の理論的焦点は、生産期間の違いが資本回転と必要前貸資本額に与える影響にある」とのことです。…ので、恒例のマルクス図も、今回はTIVAさんに頼んで作ってもらった「ドジャースのマルクス」です。私のPCのAI君に頼んでも「ドジャースのユニフォーム=実在チームの商標ロゴを含むデザインは生成できません」と断ってくるのですが、彼のAIはなぜ断らなかったのか分かりませんが、見事にできていますね。

次回は第14章「労働期間」の討論をやってから第15章に入ります。新レポーターはTakちゃんです。よろしくお祈りします。

懇親会は「連休期間は何するの?」と、ほとんどの人はメーデーには参加する予定でしたが「実家に帰って田植えを手伝う」という人もいました。議論は中道改革連合などの話しなどで、今回は早めに閉会としました。

**「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。**

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから- Kusiちゃん

### 第13章 生産期間

#### 【AIの解説】

第2巻第2編は「資本の回転」を扱っていて、第13章「生産期間」では、その中でも「生産そのものに要する時間」が資本の回転にどう影響するかを整理しています。

ここでの前提は「資本の回転期間=生産期間+流通期間」(P229L8)という枠組みです。このうち、生産期間の構造と特徴を細かく分解するのが第13章の役割です。

#### 【AIの解説】

生産期間は、前貸された生産資本が生産部門にとどまっている全時間を指します。ここには三つの局面が含まれます。

- ・労働が実際に行われている機能期間
- ・夜間・休日・天候などによる中断期間
- ・自然的過程や化学的過程に任されている期間(成長・乾燥・熟成など)

したがって、生産期間は常に労働期間より広い範囲をカバーし、「資本が価値増殖のために生産過程に拘束されている総時間」を示す概念として位置づけられます。